

■欧州：周辺国はドイツの再エネの導入を睨んで揚水発電所の建設を計画

ドイツ地元紙は 2010 年 3 月 31 日、近隣諸国のオーストリア、ノルウェー、スイスでは、主にドイツへの電力供給を視野に入れた揚水発電所の建設に数十億ユーロ規模の投資が行われていると報じている。これらの国々では揚水発電所の建設に適した地理的な条件を備えていることから、自国内はもとよりドイツ国内での電力供給の変動に対応する設備として期待されている。ドイツ連邦政府は発電電力量に占める再生可能エネルギーの比率を、現在の約 16%から 2020 年には少なくとも 30%まで拡大する計画を立ており、系統の安定化を図るために即座に対応が可能な電源の確保が必要とされている。ドイツ国内でも新規の揚水発電所建設の計画はあるものの、地元の反対や建設候補地が限定されているのが現状である。一方、オーストリアでは建設中および計画が 200 万 kW、スイスは建設中が 160 万 kW、計画が 135 万 kW ある。また、ノルウェーはドイツへの電力供給のために 2 本の海底ケーブルの敷設を予定しており、今後の揚水発電所の新規建設に向けて弾みがつくとしている。